

第13回日本アグーナリー（13NA）準備状況（平成29年10月10日現在）

1. 13NA準備委員会の編成

任 務：大会の企画全般および調査研究に関すること

任 期：実行委員会発足時（平成30年10月1日予定）まで

編 成：委員長 増 子 恵 二 日本連盟理事・防災危機管理タスクチーム長
副委員長 津 田 繁（京都）指導者養成委員、12NA副実行委員長
委 員 菰 池 真 史（大阪）防災危機管理タスクチーム員
委 員 田 中 齊（千葉）ICTチーム員
委 員 安 藤 俊 典（福島）団委員長（元支援学校校長）

※実行委員会へ移行予定 平成30年10月1日～平成33年3月31日

※専門部会の編成予定 平成31年4月1日～

※現地説明会開催 平成31年秋頃

2. 第13回日本アグーナリー準備委員会（第1回）の開催

日 時：3月18日（土）14：00～19日（日）11：45

場 所：福島・国立磐梯青少年交流の家

出席者：増子委員長、津田副委員長、田中委員

参 席：福島連盟13NA準備委員会委員 他

主な内容：1. 準備委員会の編成

2. 12NAの評価

3. 13NA開催協力、業務の役割分担

4. 基本構想

5. 今後の準備日程

第1回目となる今回の準備委員会では、福島連盟13NA準備委員会、福島県教育庁、猪苗代町教育委員会の担当者、磐梯青少年交流の家所長にも参席いただいて顔合わせを行い、上記について検討しました。今後、準備委員会として検討した大会日程案を関係機関へ提案のうえ、承認を得て、確定していくこととしました。

3. 大会日程の確定

第1回準備委員会の提案を平成29年5月9日（火）開催の理事会で了承

参加 隊：平成32年8月12日（水）～16日（日）

本部スタッフ：平成32年8月11日（火・祝）～16日（日）

理事会記録抜粋：増子理事より、第13回日本アグーナリーの開催日について、平成32年8月11日（火・祝）を本部スタッフの入場日、12日（水）を参加隊入場日、16日（日）を退場日とすることの説明があり、これを了承した。

なお、会場地は、国立磐梯青少年交流の家（平成28年5月12日（木）開催の理事会で承認）

理事会記録抜粋：第7号議案：第13回日本アグーナリー開催地について（平成32年開催）
膳師日本連盟コミッショナーより、第13回日本アグーナリー会場選定委員会委員長として会場候補地について説明があり、採決の結果、賛成多数をもって福島連盟より提案のあった「国立磐梯青少年交流の家」で開催することを承認した。

4. 日本アグーナリー・グループディスカッション

「つなごう、きみの声が13NAをつくり出す！」の開催

第13回日本アグーナリーへ奉仕参加するスカウト（ローバースカウト、ベンチャースカウト）が、大会開催目的である「障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し合う社会の実現を目指すこと」を個々のスカウトの自発的活動により達成するため、過去に奉仕参加したスカウトからグループディスカッションを行っていただき、そこで得た意見を早い段階から大会企画へ取り入れることにより、企画段階からの青年参画を進め自分たちの大会として帰属意識を高め、奉仕スカウトの活性化をはかることを目的として、平成29年7月に全国4会場で開催しました。

	会場	場所	日時	参加者	スタッフ
1	宮城会場	多賀城分庁舎	7月22日(土) 13時～16時	4県連盟9人 参席3人	増子委員長、安藤委員、田中委員
2	愛知会場	県青年会館	7月23日(日) 13時～16時	5県連盟7人	増子委員長、津田副委員長、田中委員
3	大阪会場	大阪スカウト会館	7月29日(土) 13時～16時	4県連盟10人 参席1人	増子委員長、津田副委員長、田中委員
4	東京会場	ボーイスカウト会館	7月30日(日) 13時～16時	3県連盟8人	増子委員長、田中委員

このワークショップでは、アグーナリーの変遷、事前アンケートの集計結果および分析結果の報告に基づき、次回大会に向けて、「働く場の改善」、「生活環境の改善」、「コミュニケーションの改善」、「プログラムに関すること」の4つのテーマに基づき、ディスカッションを行い、参加隊、障がいのある方、ローバースカウト等から様々な視点での意見があり、取りまとめ、次回準備委員会で検討することとしました。

5. 13NAに向けた改善提案のまとめ

グループディスカッションで得られた意見を分析し、改善提案をまとめました。

(1) 働く（奉仕する）環境（組織も含む）の改善提案

- ① プログラムと配属人数の再検討
- ② シフト・ローテーションの見直し
- ③ 適材適所
- ④ 業務内容の細分化と明確化
- ⑤ 余暇時間の確保
- ⑥ 一般ボランティアの活用（通訳・手話ボランティア）
- ⑦ チームビルドの検討（部署別の T シャツ・ネッカチーフなど）
- ⑧ 事前準備（配属場所、業務内容、研修会など）

(2) 生活環境の改善提案

- ① 入浴の見直し（時間の再検討、車椅子利用）
- ② トイレの見直し（車椅子利用、視覚障害者など障がい対応）
- ③ 食事の見直し（質、量、食堂設備、介助備品）
- ④ 宿泊場所の改善（区画、常夜灯、通路、勤務に合わせたサイト割）
- ⑤ 生活相談窓口の設置
- ⑥ バディシステムの見直し（RS+VS、海外参加者との混在）
- ⑦ 生活情報の提供
- ⑧ 休憩場の設置（参加用）
- ⑨ アクセシビリティの検討（インフラ、サイン、コミュニケーションロゴの活用など）
- ⑩ 携帯電話（サービス圏内）
- ⑪ 事前情報の充実（居住エリア、大会会場）

(3) コミュニケーションに関する改善提案

- ① 配置転換によるグループの再編
- ② 外国語通訳、手話通訳者の参加協力※地域支援学校・高校の英研部への要請を含む
- ③ 情報保障（障がいに応じた配慮）
※障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン参照
- ④ アグーナリー広報活動の展開（参加者を増やす）
- ⑤ カウンセラーの常勤
- ⑥ 交流スペースの設置（カフェ、休憩室）
- ⑦ 事前研修（コミュニケーションセミナー、実践的な研修）
- ⑧ スタッフ交流プログラム（アイスブレイク、交流会、親睦会など）

(4) プログラムに関する改善提案

- ① 参加者、奉仕者も一緒に取り組めるプログラムの提供
- ② 地域性を活かしたプログラムの提供
- ③ プログラム説明（コミュニケーションボード、手話、外国語通訳（文書）など）
- ④ プログラムの参加方式（障がいに応じた選択制の導入、混雑緩和、場外一斉参加の再検討）
- ⑤ 場外一般参加者の受け入れ
- ⑥ プログラムエリアの大きさの再検討 ⑦ 事前視察（プログラムエリア、移動手段など）
- ⑧ 式典の見直し（通訳、プラカードの多言語対応、授与式、時間など）
- ⑨ スカウティング体験

野外で、より挑戦できるプログラム、そして達成感を満たすプログラムの提供

炊 事：野外料理体験、自炊

自 然：雨天対応、自然とのふれあい、登山、カヌー、サバイバル体験

探 検：磐梯の夕べ、福島県をしろろ、会津の歴史、原発の体験談

クラフト：パイオニアリング、大きなアート ※みんなで作り上げる

進歩制度：手話教室、手話体験、障がいを知る（目、耳、手、足）

班制教育：STA の活用、自発的プログラムへの対応

6. 第13回日本アグーナリー準備委員会（第2回）の開催

日時：8月19日（土）14：00～20日（日）11：45

場所：福島・国立磐梯青少年交流の家

出席者：増子委員長、津田副委員長、安藤・菰池・田中 各委員

参席：福島連盟13NA準備委員会委員他

主な内容：1. NAグループディスカッションの評価

2. 基本構想

3. 会場利用計画

今回の準備委員会では、担当の田中委員より7月に全国4会場で実施した日本アグーナリー・グループディスカッション「つなごう、きみの声が13NAをつくり出す！」の分析結果およびまとめの報告があり、その内容に基づき、13NAのテーマ、基本日程、運営組織、会場利用計画等を検討しました。

今後、準備委員会として検討した「基本構想案」を関係機関へ報告することとしました。

20日（日）午後は、正副委員長で、場外プログラム候補地の視察を行い、翌21日（月）は、陸上自衛隊第六師団（山形県神町駐屯地）に訪問し、支援協力の依頼を行いました。

<第13回日本アグーナリー基本構想（案）>

1. 目的（日本アグーナリー大会の恒常な目的を示す）

日本アグーナリーは、キャンプを通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合えあう社会の実現を目指すことを目的とする。

2. 目標（目的を達成するため、今大会としての取り組みを示す）

①国内外の特別な配慮を必要とする青少年が相集い、自信と勇気に満ちた生活態度を自ら獲得できるよう努力する。

②障がい者への理解を深め、合理的な配慮や支援が行えるようにする。

③福島の豊かな自然の中でのキャンプ生活を通じて、自然・人・社会との共生の大切さを体感する。

3. テーマ (今大会の特徴や取り組みを端的な言葉で示す)

「We Can! ふかめよう友情、ひろげよう絆」

We Can (私たちは、できるのだ) は、世界スカウト機構が、各国スカウト組織の指導者を対象として“健康や障がいについての意識”を高めていくために発行したプログラム資料の名称であり、世界的なボーイスカウト運動の中でも「障がい(者)」に対する意識を考える標語ともなりました。この言葉は、第8回、第9回ではサブテーマとし、第10回～第12回では、参加者それぞれが仲間と一緒に何ができるか、何をすべきかを考えるようこの言葉をテーマに設定しました。第13回も引き続き、この言葉をテーマとし、サブテーマには、開催地福島ならではのキーワードである「絆」を使用しました。

4. 対象 障がいのあるスカウトまたは一緒に活動を希望するスカウト

5. 宿泊 固定野営または舎営

6. 規模 1, 200人

7. 運営組織 総合サービスセンター (インフォメーションセンター含む)、生活サービスセンター、活動サービスセンター、チャレンジクルーセンター、新たに、一般参加サポートセンター (仮称)

8. 基本日程

月日	午前	午後	夜
8月11日(火)		準備・事前研修	全体会
8月12日(水)	準備・事前研修	参加隊入場・設営	開会式
8月13日(木)	場内プログラム	場内プログラム	国際交流の夕べ
	場外プログラム (全体の3分の1)		
8月14日(金)	場内プログラム	場内プログラム	フォーラム
	場外プログラム (全体の3分の1)		
8月15日(土)	場内プログラム	場内プログラム	磐梯の夕べ
	場外プログラム (全体の3分の1)		
8月16日(日)	環境整備・閉会式		